

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハックスペースこっしー			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日 ~			2026年1月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	2026年1月5日 ~			2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月23日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが主体的に考え、選択・決定することや、人前で役割を担う経験を、発達段階や特性に配慮しながら提供していること	ゲーム内容や掃除場所、集団活動での役割分担などを話し合いで決める機会を設け、子どもたちの意見が反映される経験を大切にしている。また、進行表やカードを活用し、文字理解や表出の程度に関わらず参加できるよう配慮しながら、人前に立つ役割を提供している。	話し合いの過程や決定理由、役割を担った経験について正のフィードバックを行い、選択や発表の経験が次の場面でも活かせるよう支援していく。現在、ミーティングと終礼の進行表しかないので、プログラムの進行表や手順書を作成し、幅広く経験できるようにする。
2	卒業や進路を見据え、将来の生活を意識しながら、家庭と連携した支援を行っていること	フォーマルアセスメントやインフォーマルアセスメントを基に、卒後必要な能力を見据えて、それに応じた体調管理や表出練習、時間管理、進路調べ等の自己決定や意思表出につながる活動を行っている。また、身辺自立や家事スキルなど生活に直結するものは、保護者との情報共有を行い、連携を図りながら支援をしている。	時間管理については、次の予定を見据えて行動を切り替えるといった管理だけでなく、集中しすぎて疲れすぎないようにするペース配分の視点も含む事を意識して支援を行う。また、就労を継続することを見据え、時間意識と併せて気持ちとの向き合い方も含めた支援を検討していきたい。
3	SSTを中心に、意見表出や話し合いの機会を継続的に設けていること	すごろく形式、一問一答形式、話し合いや議論形式など、その時のメンバーや状況に応じて方法を柔軟に変え、無理なく参加できる形で実施している。	SSTに取り組む際は、個々の目標設定を行い、その目標達成のために必要な支援を行い、より充実した内容にする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラムの参加機会が限定される利用者がいる点	曜日でプログラムを固定しているため、利用する曜日や支援時間により、参加するプログラムが固定されている利用者がいる。 外出行事等、終日利用時のみ実施されているプログラムがあるため、参加できない利用者がいる。	平日については、プログラムを曜日で固定しきず、柔軟に入れ替えて予定を組み立てる。終日にしか行っていないプログラムについては、面談時などに伝達を行う。併せて終日利用しない理由についても把握し、対応策を検討する。
2	おやこっしーの参加率が低い点	開催日時や内容が、保護者の生活状況や関心と合っていない可能性がある。また、参加しにくい理由や求めている情報を十分に把握できていない。	面談時にニーズを把握したり、どのような形だと参加しやすいかなどを尋ねたりして、おやこっしーの参加に繋げる。おやこっしーの開催が決定した際には、こちらから積極的に声掛けをして、参加を促す。
3			